

沖縄戦について思ったこと

古堅中学校 3年5組 長嶺 由太哉

僕達古堅中学校3年生は、社会の時間を使
って沖縄戦について作文を書くことになりま
した。

僕は小学生のころから、学校で様々な戦争
体験者の話を聞いてきて、やっぱり戦争のこ
とについては戦争体験者に聞くことが一番と
思っで、祖母と祖父をたずねてみました。が、
戦後に生まれたのであまりくわしい話は聞け

ませんでした。

しかし、学校の図書館でちよらど沖縄戦に
ついての本をたくさん集めてあるコーナーが
できていきました。そこでいろいろな本を読み
思っしたことをごれから書きます。

まず、沖縄戦とは何かについて書きます。

沖縄戦は日本で唯一地上戦がおこなわれた戦
いぞす。1945年4月1日に読谷村の渡具
知の浜にアメリカ軍が上陸しました。その戦
いは6月23日まで続きました。この戦いは

多くの死者もうみだしました。

しかしその死者は戦いで亡くなつたのではなく集団自決と呼ばれるものでなくなつたのです。集団自決とは、アメリカ軍につかまると死ぬよりおそろしいことされると思つてそんなことされるよりは、死んだほうがましだと思つておこなわれるそうです。

僕達が住んでいる読谷村では、今ビキリがマとシムリがマで集団自決がおきそうでした。しかし、シムリがマにはハワイ帰りの人がいて集団自決をまぬがれました。だが、もう一方の今ビキリがマでは、集団自決がおこなわれてしまいました。

僕は、この事実を知つてとても激しい怒りと悲しみを覚えました。いくら戦争中とはいえ、もうこんなことは二度とおきてほしくないです。

沖縄に、上陸したアメリカ軍は勢いに乗つて進軍を続けました。2日後には南海岸に達し、沖縄を南北に分断しました。北部に進ん

だアメリカ軍は4月13日には辺戸まで進軍し、17日には日本軍の本拠地の八重岳を制圧して20日ごろには北部全体を占領していったそうです。この時住人はアメリカ軍の攻撃のほかには日本軍の兵士にもおびえなからかくれていたそうです。

理由は、アメリカ軍に負けた日本兵は、住人の食料をうばったり軍の指示にしたがわないう住人を拷問したり、殺したりする事件をおこしました。

僕は、もう悲しい気持ちしか出てきません。勝手に戦争にまきこまれただけでなく、せつかくアメリカ軍に見つからずに逃げれたのに、味方であるはずの日本兵に殺されるなんてあまりにもかわいそうだと僕は思います。

僕は、慰霊の日があつてよかつたと思いません。慰霊の日があつたおかげで、この作文を書く機会ができました。これから生まれてくる子供達にも、戦争がいかに悲しいことが教

えて、もう二度と戦争をおこしてはいけな
いといいたいです。このきれいな沖縄や日本を
戦争な人が汚してほしくないので、これか
ら日本には戦争をおこしてほしくありません。